

こぼれ話 13

風砲（空気銃）を見た勝五郎

文政六（1823）年四月二十三日、中野村（八王子市）の勝五郎は自らの生まれ変わりの話をするために、国学者平田篤胤の塾を訪問しました。この日、学舎気吹舎には、国友能当という幕府御用達の鉄砲鍛冶が来ていました。

国友藤兵衛能当家は、近江出身の名門鉄砲鍛冶ですが、この時の能当は9代目一貫斎で、平田門人でもありません。一貫斎は、反射望遠鏡を製作するなど発明家としても有名で、オランダ伝来の風砲を改良して、わが国ではじめて実用的な空気銃を製作しました。『勝五郎再生紀聞』には、篤胤の兄に見せるために風砲を持参し、撃ち方をまねて見せたと記されています。そして、ちょうどその時に、勝五郎が父源蔵と共にやってきたとありますから、勝五郎も当時の最新式の空気銃が撃たれる様子を一緒に見たのではないかと思われます。そして、みなに促されて勝五郎がただどしく語る生まれ変わりの話を、一貫斎も一緒に聞いたのでした。



▲平田篤胤に生まれ変わりの話をする勝五郎と父親 画叶内匡子